

# 消 防 統 計 資 料

(令和4年)

住宅用火災警報器 交換のおすすめ

10年たったら、  
とりカエル。



Niihama City Fire Department  
新居浜市消防本部

〒792-0025 新居浜市一宮町一丁目5番1号  
TEL:0897(34)0119 FAX:0897(34)1189  
URL:<http://www.city.niihama.lg.jp/>



# ～住宅用火災警報器は

## 10年を目安に取り換えましょう～



住宅の寝室や階段室に設置されている住宅用火災警報器は、平成18年の法令改正で消防法及び新居浜市火災予防条例により設置が義務となり、15年以上が経過しました。電池寿命が10年の住宅用火災警報器は、電池切れの時期になりますので、電池や本体の交換が必要です。

市内においても電池切れのアラームが鳴動したり、作動確認した際に音が鳴らなかったり、故障を知らせる音声が鳴るなどの事例が発生しています。

次の方法で、交換時期の確認や、定期的な作動確認をすることで、適切な維持管理をしましょう。

### 【設置時期を調べるには】

1. 住宅用火災警報器本体に記載されている「製造年」を確認する。
2. 住宅用火災警報器を設置した際に、本体に記入した「設置年月日」を確認する。

### 【作動確認について】

1. 月に1回程度定期的に作動確認を行ってください。
2. 住宅用火災警報器についている「ボタンを押す」または「ひもを引く」

警報音が適正に鳴る⇒正常

警報音が鳴らない又は故障を知らせる⇒電池交換又は故障

※ 作動確認が出来ない場合は、取扱説明書をよく読み、電池（本体）を交換するか、メーカーに問い合わせる。


### 【交換するには】


持ち家…家電販売店、ホームセンター等で購入


（日本消防検定協会の検定品）

借家…大家若しくは管理会社に連絡し相談

# 目 次

	火 災		ページ
1.	火災概況		1
2.	火災種別		2
3.	建物用途別件数		2
4.	月別火災件数		3
5.	時間帯別火災件数		3
6.	曜日別火災件数		4
7.	覚知方法別火災件数		4
8.	校區別火災件数		5
9.	月別原因別火災件数		6
10.	死傷者の発生状況		7
11.	初期消火の状況		7
12.	10年間の火災概況(平成25年～令和4年)		8
13.	消毒用アルコールの安全な取扱いについて		9

	救 急		
1.	救急活動状況		10
	(1) 地区別救急出動件数の推移		11
	(2) 事故種別・年齢区分別搬送人員の状況		11
	(3) 事故種別救急出動状況(月別)		12
2.	応急手当普及啓発活動		13
3.	救急車適正利用のお願い		13
4.	救急支援情報サービス		13

	救 助		
1.	救助概況		14
2.	救助活動状況		14
3.	救助統計		15
4.	過去5年間の救助概況		16

# 火 災



1. 火災概況
2. 火災種別
3. 建物用途別件数
4. 月別火災件数
5. 時間帯別火災件数
6. 曜日別火災件数
7. 覚知方法別火災件数
8. 校區別火災件数
9. 月別原因別火災件数
10. 死傷者の発生状況
11. 初期消火の状況
12. 10年間の火災概況(平成25年～令和4年)
13. 消毒用アルコールの安全な取扱いについて

## 1. 火災概況

令和4年中の火災件数は36件で、前年と比較すると4件減少しています。これは約10日に1件の割合で火災が発生したことになります。

火災による死者は2人（前年1人）、負傷者は6人（前年5人）、建物焼損棟数は42棟（前年37棟）、建物焼損床面積は1098.94㎡（前年2842.27㎡）となっています。また、火災による損害額は67,322千円で、前年と比較すると110,840千円減少しています。

区 分		単 位	令和4年	令和3年	増 減
出火件数	出 火 件 数	件	36	40	▲ 4
	建 物	〃	22	21	1
	林 野	〃	0	1	▲ 1
	車 両	〃	5	5	±0
	船 舶	〃	0	0	0
	そ の 他	〃	9	13	▲ 4
損害額	合 計	千 円	67,322	178,162	▲ 110,840
	建 物	〃	66,418	176,196	▲ 109,778
	林 野	〃	0	0	0
	車 両	〃	904	1,696	▲ 792
	船 舶	〃	0	0	0
	そ の 他	〃	0	270	▲ 270
焼損棟数	合 計	棟	42	37	5
	全 焼	〃	13	10	3
	半 焼	〃	0	2	▲ 2
	部 分 焼	〃	16	10	6
	ぼ や	〃	13	15	▲ 2
焼損面積	建物焼損床面積	㎡	1098.94	2842.27	▲ 1743.33
	建物焼損表面積	〃	160.56	85.37	75.19
	林野焼損面積	a	0.0	1.7	▲ 1.7
死傷者	死 者	人	2	1	1
	負 傷 者	〃	6	5	1
	負傷者のうち30日死者	〃	0	0	0
り 災	世 帯 数	世 帯	30	17	13
	人 員	人	76	42	34
出 火 率			3.12	3.43	▲0.31

※出火率とは、人口1万人当りの出火件数をいう。▲は、減少を示す。

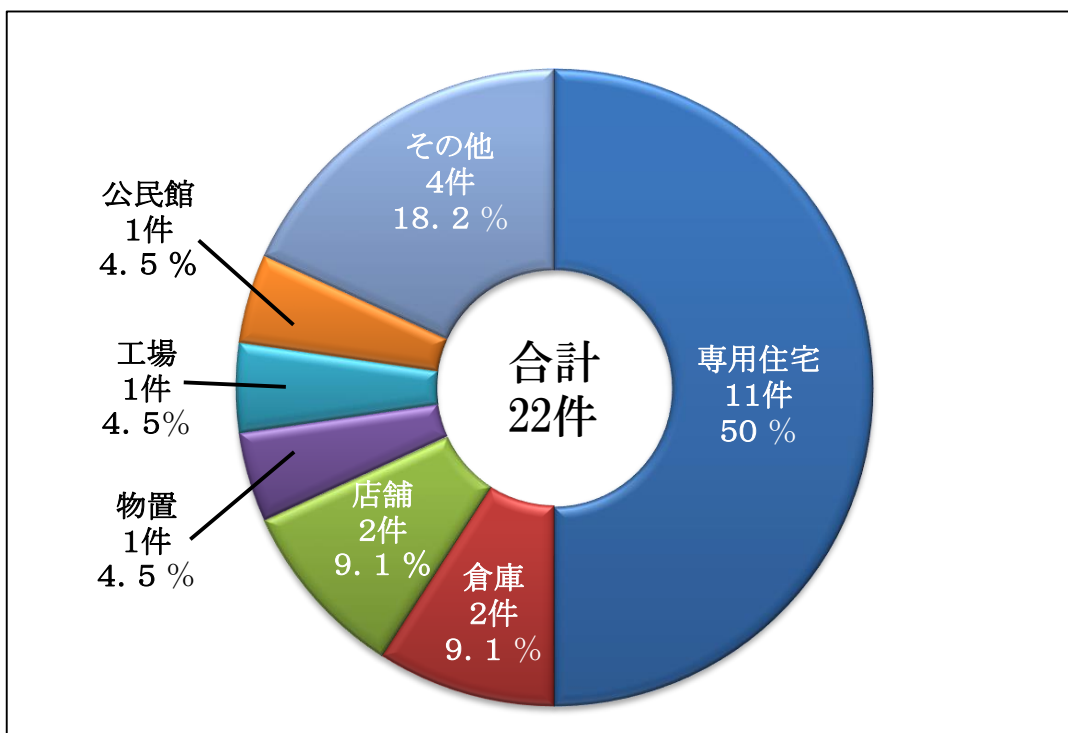
## 2. 火災種別

火災種別ごとの件数をみると、建物火災が22件（61.1%）で全火災の約6割を占めており、次いでその他の火災が9件（25%）、車両火災が5件（13.9%）となっています。



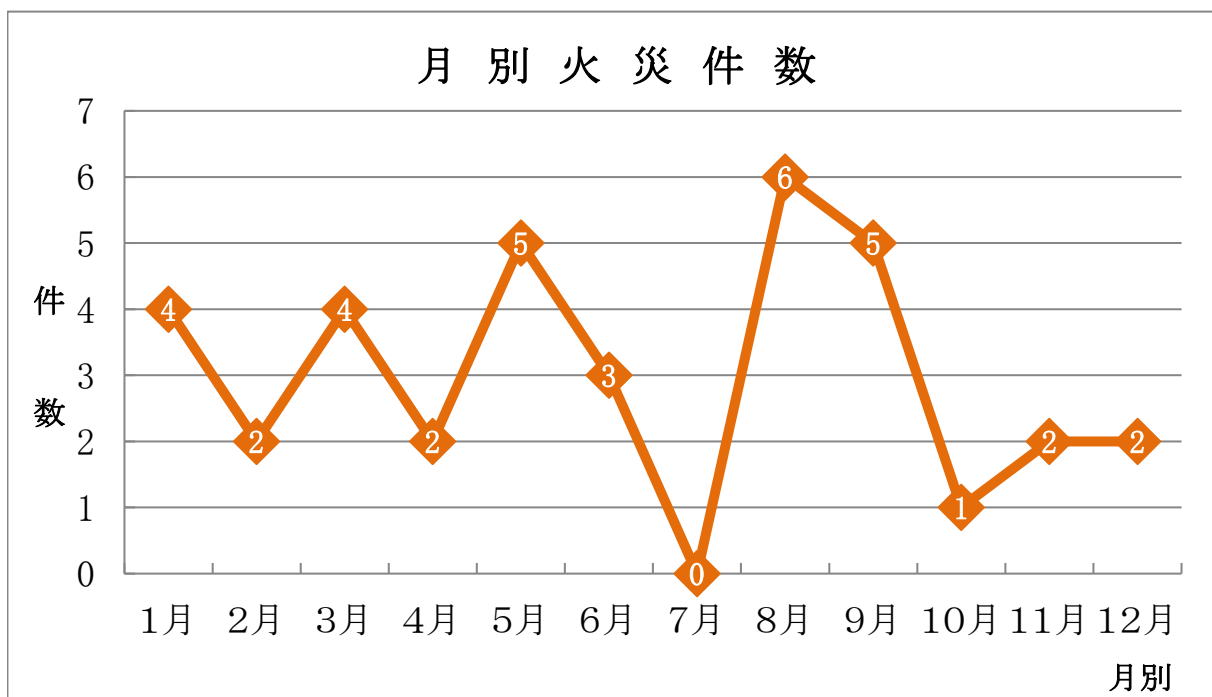
## 3. 建物用途別件数

建物火災を用途別にみると、住宅火災が11件と最も多く、建物火災の約5割を占めています。



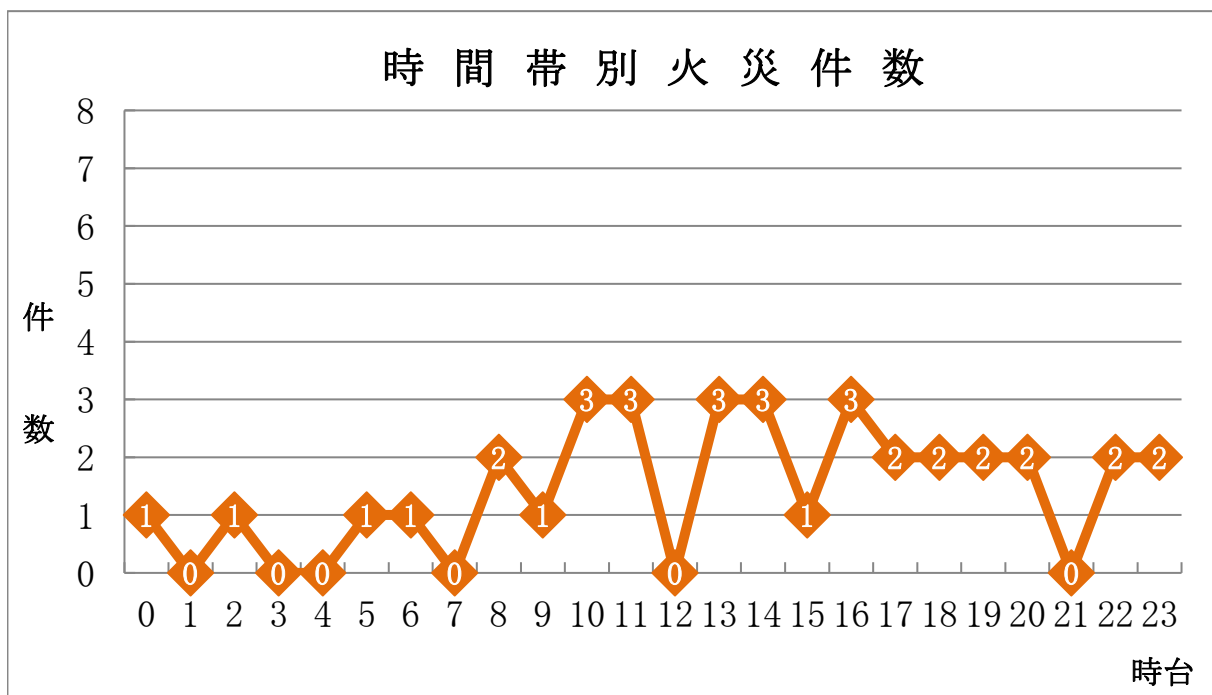
#### 4. 月別火災件数

火災件数を月別にみると、8月（6件）が最も多く、7月（0件）が少ない月となっています。



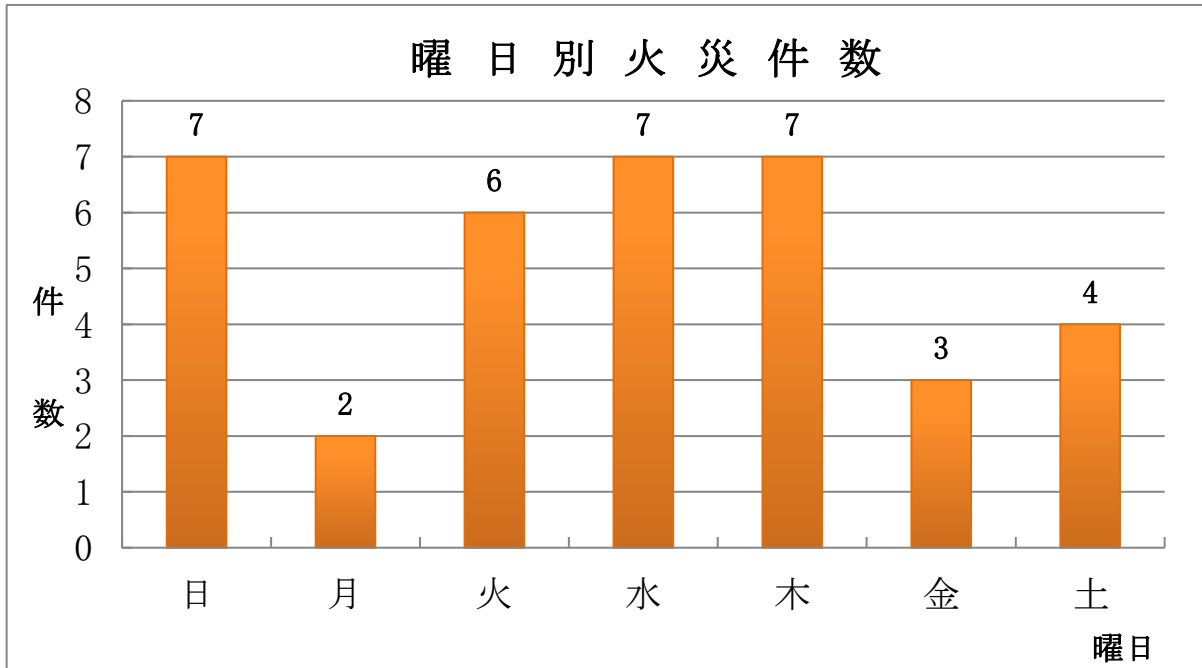
#### 5. 時間帯別火災件数

火災件数を時間帯別にみると、10時、11時、13時、14時、16時（3件）が最も多く、次いで8時、17時～20時、22時、23時（2件）となっています。



## 6. 曜日別火災件数

火災件数を曜日別にみると、日曜日、水曜日、木曜日（7件）が最も多く、次いで火曜日（6件）となっています。



## 7. 覚知方法別火災件数

消防機関が火災を覚知した方法別にみると、携帯電話からの119番通報（21件）が約6割と多くなっています。

覚知方法別	件 数	割 合
119(携帯電話から)	21	58.3%
119(固定電話から)	7	19.4%
事後聞知	4	11.1%
加入電話	3	8.3%
警察電話	1	2.8%
計	36	100%



## 8. 校区別火災件数

校区単位での火災発生件数です。

- ・川西地区： 12件
- ・川東地区： 7件
- ・上部地区： 17件

大島

0

若宮 2	宮西 1	新居浜 4	高津 3	浮島 0	垣生 0
惣開 0	金子 3		神郷 1	多喜浜 3	
金栄 2					

大生院 0	中萩 8	泉川 3	船木 1
	角野 4		
	別子 1		

※若宮及び大島は旧小学校区

## 9. 月別原因別火災件数

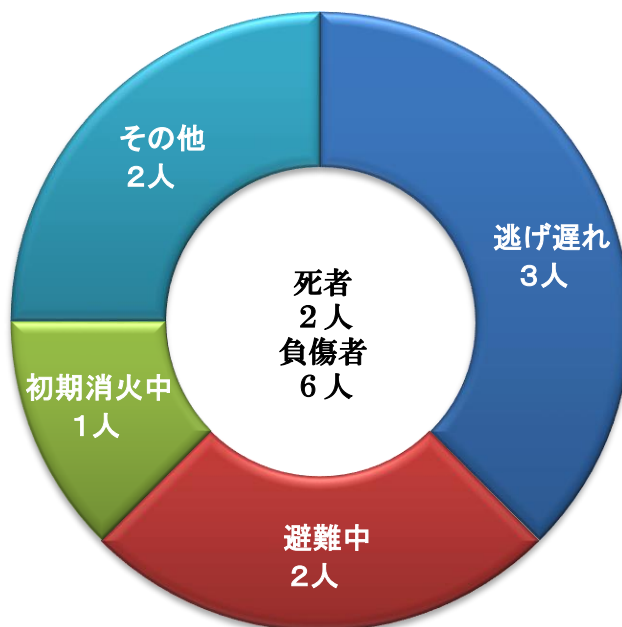
36件の火災を出火原因別にみると、「火入れ」が3件と最も多く、次いで「たばこ」「電気装置」「電気機器」が2件となっています。

原因別	月別 計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
		発生件数	36	4	2	4	2	5	3	0	6	5	1
火入れ	3	1				1			1				
たばこ	2	1							1				
電気装置	2			1						1			
電気機器	2						1			1			
こんろ	1						1						
放火	1										1		
放火の疑い	1			1									
火遊び	1				1								
風呂かまど	1					1							
ライター	1											1	
マッチ	1								1				
電灯電話等の配線	1									1			
ストーブ	1												1
その他	8	1	1	1	1	1	1			2			
不明	10	1	1	1		2			3			1	1

## 10. 死傷者の発生状況

火災による死傷者は令和3年中は死者1人、負傷者5人でしたが、令和4年中は死者2人、負傷者6人となっており、比較すると死者が1人、負傷者が1人増加しています。

また、令和4年中の死傷者の内訳は、逃げ遅れ(死者2人、負傷者1人)、避難中(負傷者2人)、初期消火中(負傷者1人)、その他(負傷者2人)となっています。



## 11. 初期消火の状況

初期消火の状況をみると、初期消火が実施されたのは26件で、そのうち17件が初期消火の効果がありました。

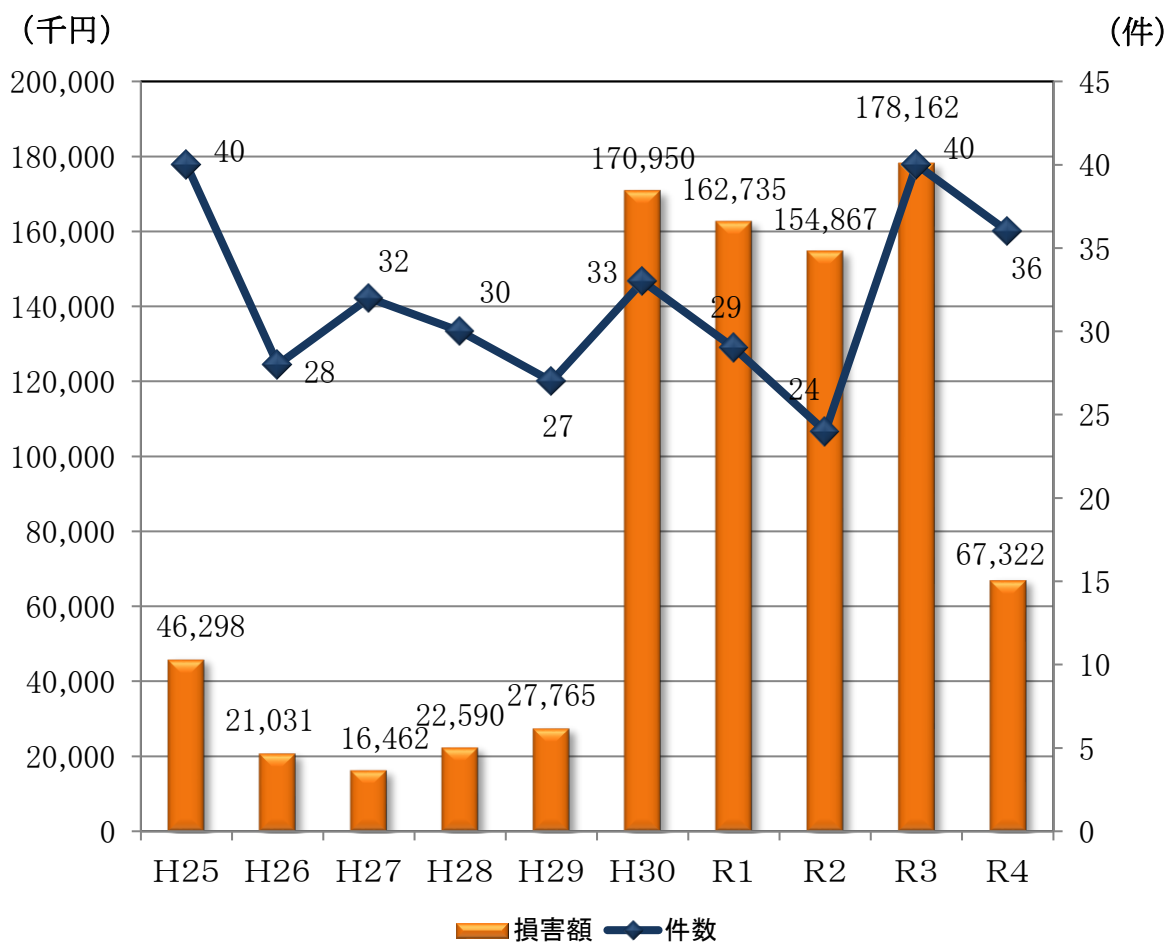
また、使用された初期消火器具等をみると、「水道、浴槽、汲み置き等の水をかけた」が10件で最も多く、次いで「水バケツ」が7件となっています。

火災件数	36件
初期消火実施（構成比）	26件（72%）
初期消火なし（構成比）	10件（28%）

初期消火方法	実施件数	有効件数（有効率）
水道、浴槽、汲み置き等の水をかけた	10件	6件（60%）
水バケツ	7件	3件（43%）
粉末消火器	6件	5件（83%）
屋外消火栓設備	1件	1件（100%）
もみ消した	1件	1件（100%）
その他	1件	1件（100%）
<b>合計</b>	<b>26件</b>	<b>17件（65%）</b>

## 12. 10年間の火災概況(平成25年～令和4年)

年別	区分	件数 (件)	損害額 (千円)	負傷者 (人)	死者 (人)	出火原因 (件数)
平成25年		40	46,298	4	0	たばこ(7件)
平成26年		28	21,031	2	5	放火の疑い(5件)
平成27年		32	16,462	5	0	火遊び(5件)
平成28年		30	22,590	8	1	ストーブ、こんろ、 内燃機関、電気機器 (各2件)
平成29年		27	27,765	6	2	電灯・電話等の配線、 たばこ(各4件)
平成30年		33	170,950	5	1	放火の疑い、配線器具 (各3件)
令和元年		29	162,735	3	3	放火、たばこ (各4件)
令和2年		24	154,867	3	1	電灯・電話等の配線、 たばこ、こんろ (各3件)
令和3年		40	178,162	5	1	こんろ、放火、 放火の疑い(各5件)
令和4年		36	67,322	6	2	火入れ(3件)



※平成30年から令和3年については、工場内で発生した火災により損害額が増加

## 13. 消毒用アルコールの安全な取扱いについて

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、手指消毒等のため、消毒用アルコールを使用する機会が増えています。消毒用アルコールは危険物に該当するものもあり、取扱いを誤ると火災等を引き起こす恐れがありますので、注意が必要です。

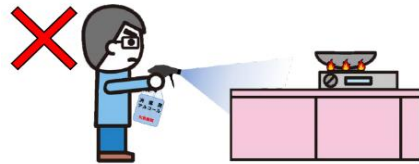
### アルコールの火災予防上の特徴

- \* 火気に近づけると引火しやすい。
- \* アルコールから発生する可燃性蒸気は、空気より重く、低いところに溜まりやすい。

### 火災予防上の一般的な注意事項

◎火気の近くで使用しないようにしてください。

消毒用アルコールは、蒸発しやすく、可燃性蒸気が発生するため、火源があると引火する恐れがあります。

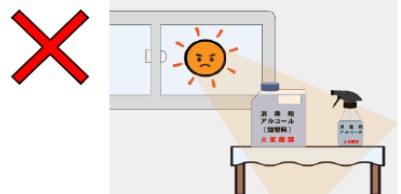


◎消毒用アルコール容器には「消毒用アルコール」や「火気厳禁」などの注意事項を記載してください。



◎直射日光が当たる場所や高温となる場所に保管しないようにしてください。

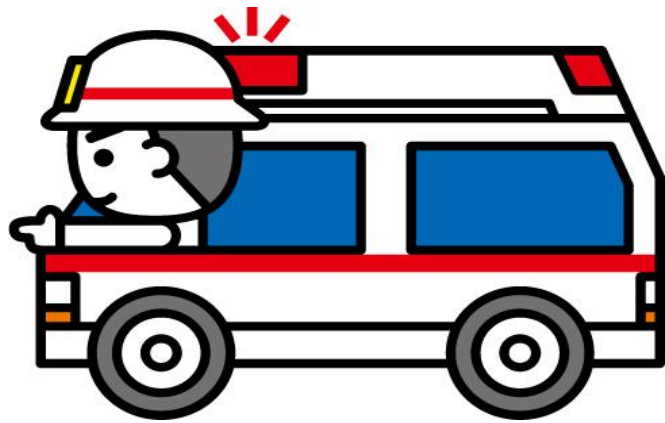
熱せられると可燃性蒸気が発生して危険です。



◎消毒用アルコールの容器を詰替える場合は、通気性の良い場所や常時換気が行える場所を選び、可燃性蒸気を滞留させないようにしてください。



# 救 急



1. 救急活動状況
  - (1) 地区別救急出場件数の推移
  - (2) 事故種別・年齢区分別搬送人員の状況
  - (3) 事故種別救急出動状況（月別）
2. 応急手当普及啓発活動
3. 救急車適正利用のお願い
4. 救急支援情報サービス

## 1. 救急活動状況

### (1) 地区別救急出動件数の推移

令和4年における救急業務の実施状況は、出場件数が6,259件で1日の平均が約17.1件出動していることとなります。その内、医療機関等へ搬送された人員の数は5,837人でした。昨年と比べると出場件数は925件増加し、搬送人員も817人増加しました。出場件数については、過去最高件数であった平成29年の5,430件を大きく上回り、新型コロナウイルス感染症の感染拡大等により、過去に類を見ないほどの増加傾向を示しました。

### (2) 事故種別・年齢区分別搬送人員の状況

搬送人員を事故種別ごとにみると、急病が3,796人(65.0%)、交通事故が426人(7.3%)、一般負傷が938人(16.1%)、その他が677人(11.6%)の割合となっています。依然、急病の占める割合が高いことが伺えます。

また年齢区分は新生児が24人(0.4%)、乳幼児が216人(3.7%)、少年が179人(3.1%)、成人が1,538人(26.3%)、高齢者が3,880人(66.5%)の割合となっており、高齢者の割合が半数以上を占めることが伺えます。

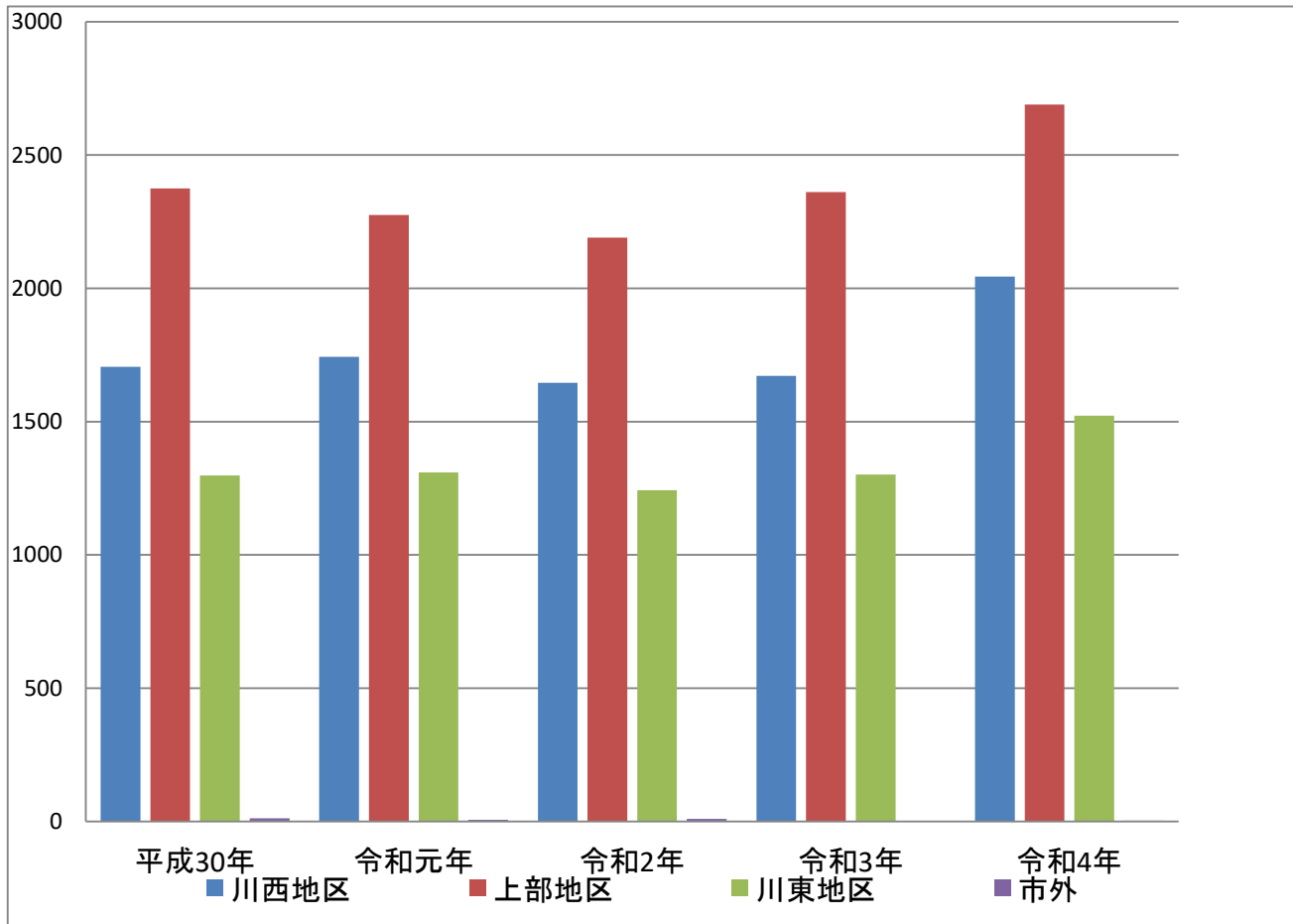
### (3) 事故種別救急出動状況(月別)

別紙参照

令和4年中の救急出動件数は、6,259件でした。事故種別出動件数は、急病事案が最も多く、次いで一般負傷、交通事故の順になっています。

月別の出動件数では8月及び12月の出動が増加しており、新型コロナウイルス感染症の第7波と第8波の影響が伺えます。

(1) 地区別救急出場件数の推移



年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
川西地区	1,706	1,743	1,646	1,685	2,044
上部地区	2,375	2,275	2,190	2,361	2,690
川東地区	1,298	1,309	1,243	1,288	1,522
市外	12	6	10		3
合計	5,391	5,333	5,089	5,334	6,259

(2) 事故種別・年齢区分別搬送人員

(令和4年)

年齢区分 事故種別	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	計
急病	1	152	90	905	2,648	3,796
交通		8	35	212	171	426
一般負傷		47	25	152	714	938
その他	23	9	29	269	347	677
合計	24	216	179	1,538	3,880	5,837



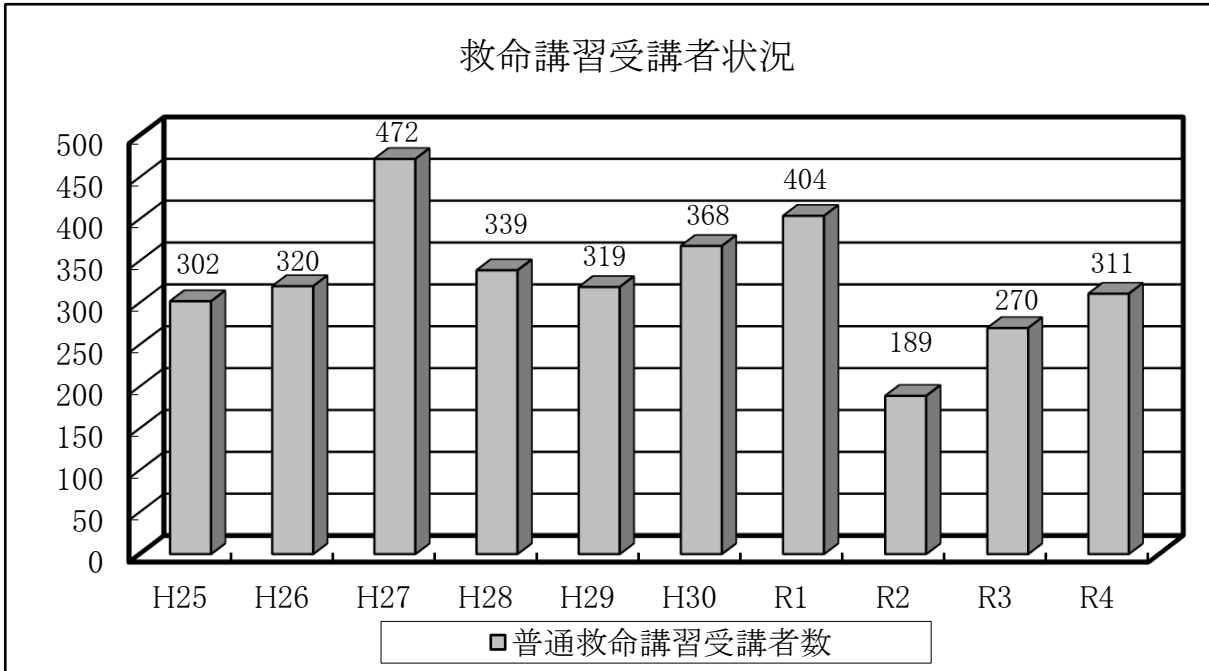
## (3) 事故種別救急活動状況

(令和4年中)

		合計	月 別											
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
出動件数		6,259	491	510	458	450	470	487	528	628	472	564	535	666
搬送人員		5,837	452	465	427	435	427	448	495	587	445	534	509	613
火災	出動件数	6	1							2				3
	搬送人員	5								2				3
自然災害	出動件数													
	搬送人員													
水難	出動件数	1			1									
	搬送人員	1			1									
交通事故	出動件数	441	24	33	34	38	39	45	44	37	39	45	36	27
	搬送人員	426	23	29	30	41	40	39	42	38	40	43	34	27
労働災害	出動件数	38	6	3	4	2	1	2	4	5	3	5	2	1
	搬送人員	38	6	3	4	2	1	2	4	5	3	5	2	1
運動競技	出動件数	23	2		1	2	4	4	5			2	2	1
	搬送人員	23	2		1	2	4	4	5			2	2	1
一般負傷	出動件数	988	91	72	77	65	79	73	76	73	77	116	82	107
	搬送人員	938	89	65	73	59	73	70	71	71	76	112	78	101
加害	出動件数	18	2		1		2	1	1	1	2	6	1	1
	搬送人員	12			1		1		1	1		6	1	1
自損行為	出動件数	46	5	2	3	5	4	9	3	3	1	5	6	
	搬送人員	36	4	1	3	5	3	6	2	3	1	4	4	
急病	出動件数	4,077	316	341	288	296	287	308	350	449	299	336	355	452
	搬送人員	3,796	286	316	271	284	262	285	333	411	279	316	338	415
その他	出動件数	621	44	59	49	42	54	45	45	58	51	49	51	74
	搬送人員	562	42	51	43	42	43	42	37	56	46	46	50	64

## 2. 応急手当普及啓発活動

救命率の向上を図るには、通報から現場に救急車が到着するまでの間、バイスタンダーによる応急手当が必要不可欠です。本市は市民を対象に救命講習会を開催しており、令和4年中に一般救命講習は27回で受講者数は1,110名、救命入門コースは8回で102名、普通救命講習は13回で311名受講されています。本年も新型コロナウイルス感染症の影響を受けた中での救命講習開催となりましたが、感染対策を徹底し実施することにより、昨年とほぼ同じ講習回数、受講者数の推移となりました。



## 4. 救急車適正利用のお願い

近年、救急車の出場件数・搬送人員は高い件数を維持しており、救急隊の現場到着時間も遅くなっています。また、救急車で搬送された人の約1/3が入院を必要としない軽症という現状です。そこで、市民の皆様に適正に救急車を利用していただくため、「家族を守り地域を守る救急受診チャートかけはし」を作成しました。この中には、「地域医療を守り育てる5か条」、重大な病気やけがを判断する「救急受診チャート」、実際に救急車が来るまでにできることなどをフローチャートにして掲載しています。救急車を呼ぶべきかどうかの判断に困った場合などに、活用していただければと思います。救急車や地域救急医療は限りある資源です。みんなで上手に利用し、救急医療を安心して利用することのできる社会を目指していきたいと思っております。（詳細は、下記のホームページをご参照ください）

全年齢対応救急受診チャート

### 4. 救急支援情報サービス

#### ①全年齢対応救急受診チャート(新居浜市)

<https://www.city.niihama.lg.jp/soshiki/kenkouseisaku/kyukyujusin.html>

#### ②総務省消防庁「Q助」案内サイト

<https://www.fdma.go.jp/mission/enrichment/appropriate/appropriate003.html>



# 救 助



1. 救助概況
2. 救助活動状況
3. 救助統計
4. 過去5年間の救助概況

## 1 救助概況

令和4年中の救助出動件数は37件、活動件数は25件となっており、前年と比較すると、出動件数は13件の増加、活動件数は6件の増加となっています。また、救助人員は36人となっており、前年と比較すると17人増加となっています。

## 2 救助活動状況

### (1) 事故種別出動件数・活動件数・救助人員（表－1）

救助出動件数は37件であり、その内訳は、交通事故19件、機械による事故1件、建物等による事故4件、水難事故2件、その他の事故11件となっています。

活動件数は、25件となっており、交通事故9件、機械による事故1件、建物等による事故3件、水難事故2件、その他の事故10件となっています。

救助人員は36人となっており、交通事故10人、機械による事故1件、建物等による事故3人、水難事故7人、その他の事故15人となっています。

### (2) 事故種別出動人員・活動人員（表－2）

総出動人員は540人で、1件の事故に対する平均出動人員は14.6人（うち救助隊員5.0人）となっています。

総活動人員は385人で、1件の事故に対する平均活動人員は15.4人（うち救助隊員5.2人）となっています。

### (3) 事故種別出動車両等台数（表－3）

出動車両は、救助工作車21台、消防ポンプ自動車24台、指揮車・指令車11台、救急自動車29台、その他27台で、総出動車両は112台であり、交通事故28台、機械による事故2台、建物等による事故10台、水難事故8台、その他の事故64台となっています。

### (4) 事故種別活動車両等台数（表－4）

活動車両は、救助工作車21台、消防ポンプ自動車24台、指揮車・指令車11台、救急自動車29台、その他27台で、総活動車両は112台であり、交通事故28台、建物等による事故10台、水難事故8台、その他の事故64台となっています。

表-1 事故種別出動件数活動件数救助人員

事故種別 件数区分		火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械 による事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他の 事故	合計
		出動件数		19	2			1	4		
活動件数		9	2			1	3			10	25
救助人員		10	7			1	3			15	36

表-2 事故種別出動人員活動人員

事故種別 件数区分		火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械 による事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他の 事故	合計
		出動人員	兼任救助隊員		69	2		4	15		
消防隊員			71	19		1	4			124	219
救急隊員			81	6		3	12			37	139
合計			221	27		8	31			253	540
活動人員	兼任救助隊員		33	2		4	10			81	130
	消防隊員		37	16		1	3			117	174
	救急隊員		30	6		3	9			33	81
	合計		100	24		8	22			231	385

表-3 事故種別出動車両等台数

事故種別 件数区分		火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械 による事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他の 事故	合計
		出動 車両 等	救助工作車		8			1	5		
消防ポンプ自動車			6	4						14	24
梯子車・屈折梯子車											
化学車											
指揮車・指令車			1							10	11
救急自動車			12	2		1	5			9	29
船舶											
ヘリコプター											
その他			1	2						24	27
合計		28	8			2	10			64	112

表-4 事故種別活動車両等台数

事故種別 件数区分		火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械 による事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他の 事故	合計
		活動 車両 等	救助工作車		8			1	5		
消防ポンプ自動車			6	4						14	24
梯子車・屈折梯子車											
化学車											
指揮車・指令車			1							10	11
救急自動車			12	2		1	5			9	29
船舶											
ヘリコプター											
その他			1	2						24	27
合計		28	8			2	10			64	112

#### 4 過去5年間の救助概況

区分		年別				
		平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
出動件数	火災	1				
	交通	12	15	16	9	19
	水難	4	2	3		2
	その他	12	15	21	15	16
	合計	29	32	40	24	37
活動件数	火災	1				
	交通	6	11	7	7	9
	水難	4	2	3		2
	その他	8	14	17	12	14
	合計	19	27	27	19	25
救助人員	火災	1				
	交通	12	15	13	7	10
	水難	3	3	1		7
	その他	12	22	19	12	19
	合計	28	40	33	19	36

